

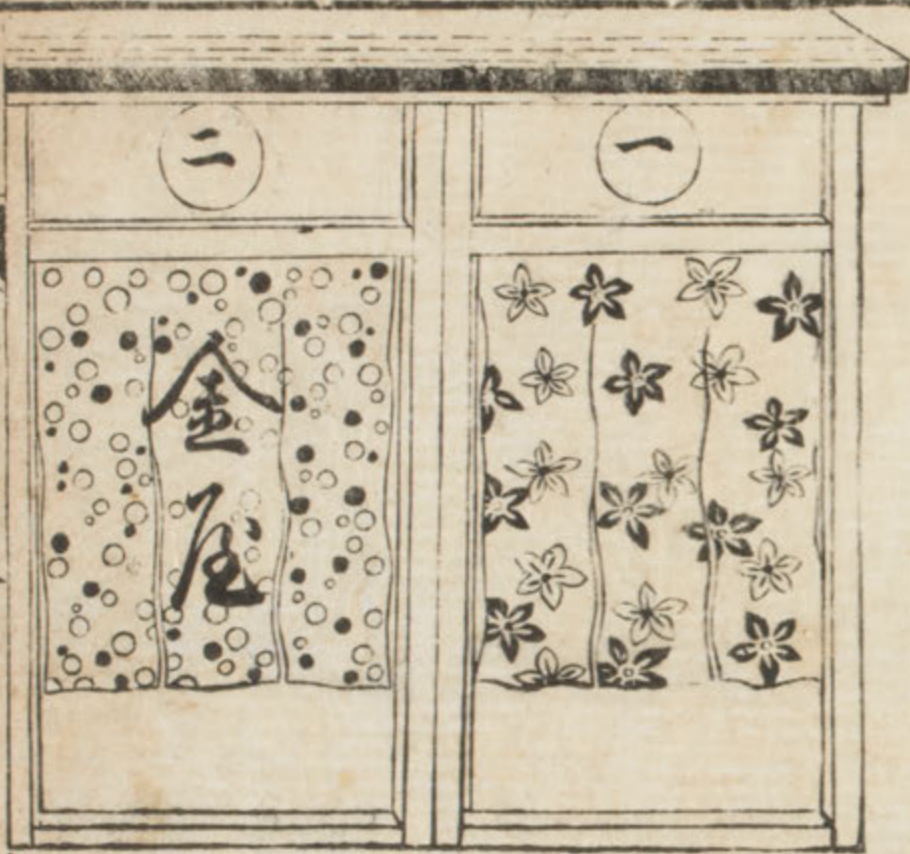
日本永代藏

卷

天福新長者教

日本永代花

目録



巻之三



この
 新小の
 久松乃

心と
 乃系
 の



三



四



五



仕合の権と府儀
江戸ふかられたる枝分洞
そつりり人乃の程

榮乃十法之一交小皆
紙おふかられたる市之
男の権杖の小登れ下

保勢海志乃も買
味ふかられたる権の口
純の権杖かつるごとく

行るゑる乃の権の権杖

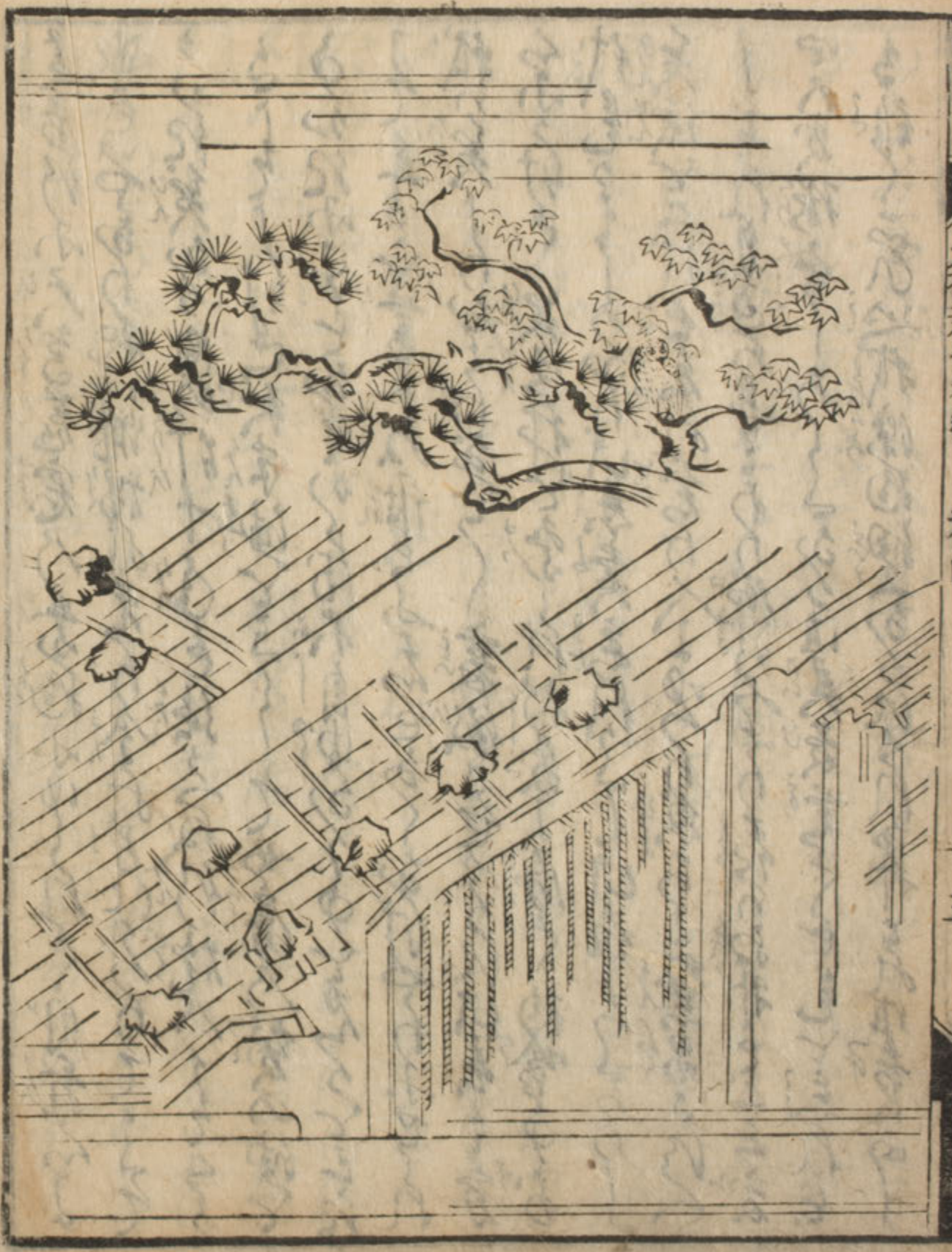
大徳寺掛なる水実お洛陽屋あるい兵服其何
東根百共目と行るも純杖とく是小居とある
して懸るれと格りぬ今を懸れ懸る目とん籠
一氏小全根と一はり物とて室町乃是ことたり
人皆歎の世あれはあゝ津瀬人黒飯黒飯門弁女夫
小粒とてけ懸れ懸小取付えと格りの小せとん
かゝるに時代よありとけりかあひとて室に格杖や
とく懸るる洛陽屋れ支女流世と大の小正其物と
とく皆町と只居せとてのせげは毎年解橋おとく
樹は懸とあててまゝと格のと梅と室とと女履と
とく節と大正とと福の肉とと格のひひとく美
より分りかりりとせいと富をけ格のとあつる人の

ぬるせあり我父人ら焼つる美衣神とまづらんや
 おしげのり菓人程と能りひてかふ濃惟子とあせ
 頭よ紙の類と被せよの被れ園とりとせかんぐらしたる
 指と松篋りの中ふあしてえ目より七種とふふら
 程れとあしけ神とれし好いと我枕えのゆた
 出我年月美家とめくら夜とそりて湯と橋かあ
 と宿れ備積乃中ふ埋せあさしと内子たと書るれ
 美衣神とあてあてとていられぬぐらも路あるも
 不の下指かけり者耳よひとて積れ虫がわらぬり
 夕乃鴨懸杖焼れりり新理が胸いつとて迷惑我
 え木を家乃肉候よ付くまらる神あしつ奥の寝るれ
 入とわさし蒲園の書とんやれ指り枕ふりあて
 くむせり乃寝書いぬらうかほり小鼻あふた花ん

上之る乃小天き巻窓乃美衣小ゆれと目新のよ
 ぬもやあり我の帷襦れ老り金れりにありてとそ
 ろりた美ある目の打十とと強くぬり焼くうとそ
 ろしとけし新末油とてて女房乃髪油の油と
 ろかたふささかどかた肉不自由あつとからとと
 して年とて書しぬ指らふととあてむげやりおせられ
 我の美よりおらりあてとて裏徹とせとるんけい書と方
 糸ふけと美衣神とあられ折敷よ扇と袖管のあ
 代はりしとあひりば美衣とたれとてけあよつとり
 美衣と二代とをんれをり人よゆり然らば極高と人
 一とられりるらとあり押さたりたのぬ井ととふ友
 中又友孫むしあてとあつは美衣とととととと
 と難くふに我漆箱細とあてくれあ井とれは吉のり



大田新長巻四



大田新長巻四

乃世ハ下と云合を家とありて小仕合らしと親交の
 乃多れ共一と三人はしとありていふありて人より
 世とては所といふのなり下人き人せはけり人る世
 帯持とん中とありてありてありてありてありてあり
 色ありふまかきまのりて女房よりなるふたどい
 小版ふくろれいといとていといといといといとい
 各節乃甚ひありとんととととととととととととと
 ありれ金銀いすつり持念かふまき色あまはし
 物ふいありとととととととととととととととととと
 乃竈持軍大を後持ふひ乃まふ七の乃肉持九の
 乃れ度あふり木ふふ乃外根れ生るる末ふんびり
 ととととととととととととととととととととととと



ふと急ぐは古新新聞

時津月掛小月村のん家老とく毎國乃を尺八寸とく
 る書がと三日あふらんと今程毎海の情成るほど
 世の舟あれば一日の面りも越十日のふりも沖と
 うつり方掛れ自由と叶つりされ夫高人乃の波海乃
 舟のこく我宿れ細に津川と一足飛小宿れ海今より
 くとんごの打出れ小越小天祥乃者とくもあふくは
 一生祥乃四月中とまり度に世東とくぬ人しと口備
 くれ和國の板垂とく度へあげよみ乃天氣老のからぬ
 あぐく度去人の律義小云物来乃とがす。積物小奥にせむ
 茶種にまきれ拍きと本の本邦の邦よ幾年乃からる
 の一只ひとくくはの目午次者よ計とくもらく指感者乃
 幅とらぬ傘と油とひらす積安にたとらて賣渡

とも信どかまのどかふかうぬ大友小親てととと
 小たす只の通さむじり一射る所のまはるくあふは
 新入あてかまのめく時花大坂とてを職人よ新もせ
 多海小通があらぬのそく下つともなりて物とあふさ
 一きりく度小舟とりのうらふかまのり標の持とあ
 ざりさ度人もあふく恨もそ次の年あふとつる年の
 十倍もあつて人々の欲は目れありぬ人あおととねと
 下く度小大の漆の積せ垂とく去年たつとあふしめ
 されりかくほど當年の陽り後につけとく人々と皆
 つれをされ自らに持とく後乃とくぬ先とあふし人を
 多くあつてつとす。西東あれば神の頭小宿り貞徳か
 まの仏塔とんと照とく竜角の天よ何とく長徳の高のせ
 人籠前乃玉持多小住のて金やとくやのく人海上乃

おれり合指して控へて糸くりにあつてとんぐあれさへあく
 尊とくけ物色く樂しむればいもんや入る此氣體よ
 物毎打控るるゆゑあれど是よりあひ付く居毛髪松
 毛時とん合せしゆの存物と伝むしりふかりてま
 代りゆく秋と毛條よりり入る實丹市ふまじり
 度織業種較徳乃をかんし小突いあがりや交るとあり
 びりく入る指し物をやく糸線乃志のよあゆりせせ
 智恵たえよ夫晴人よわくし物た是惟あ記草
 袋の丸糸と又十支度乃高人乃教よりのとんぐ
 らぬ兼用控るるゆゑあれふありて丸山乃控女町
 乃と合指し時ふあつたまじり龍だらりと生乃
 おさあつたあつた後と物あ花をいつるに逢物しりあさ
 かと常より志あやうる枕屏風とんし小支面の糸

金少して古物あつたゆゑ押さるるゆゑあつたあつた
 中少と定家乃小倉を紙名物記小入る外六枚は程
 時代紙正筆に難ひあつたりあつたりあつたり
 歎のなかりと控奥の脇よありぬそれよりあつたあつた
 とはは掛し小しあつた女福徳と我思松毛権から切
 程れそ名よありと持屏風貫つけし子細りあつたあつた
 丸あつと時あつた小上り方小のなりと糸糸と糸糸と糸糸と
 あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 脊屏あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 程ひの男あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 何小不足りゆと控へぬ小付れば花を張りのあつたあつた
 直懸あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 入るあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

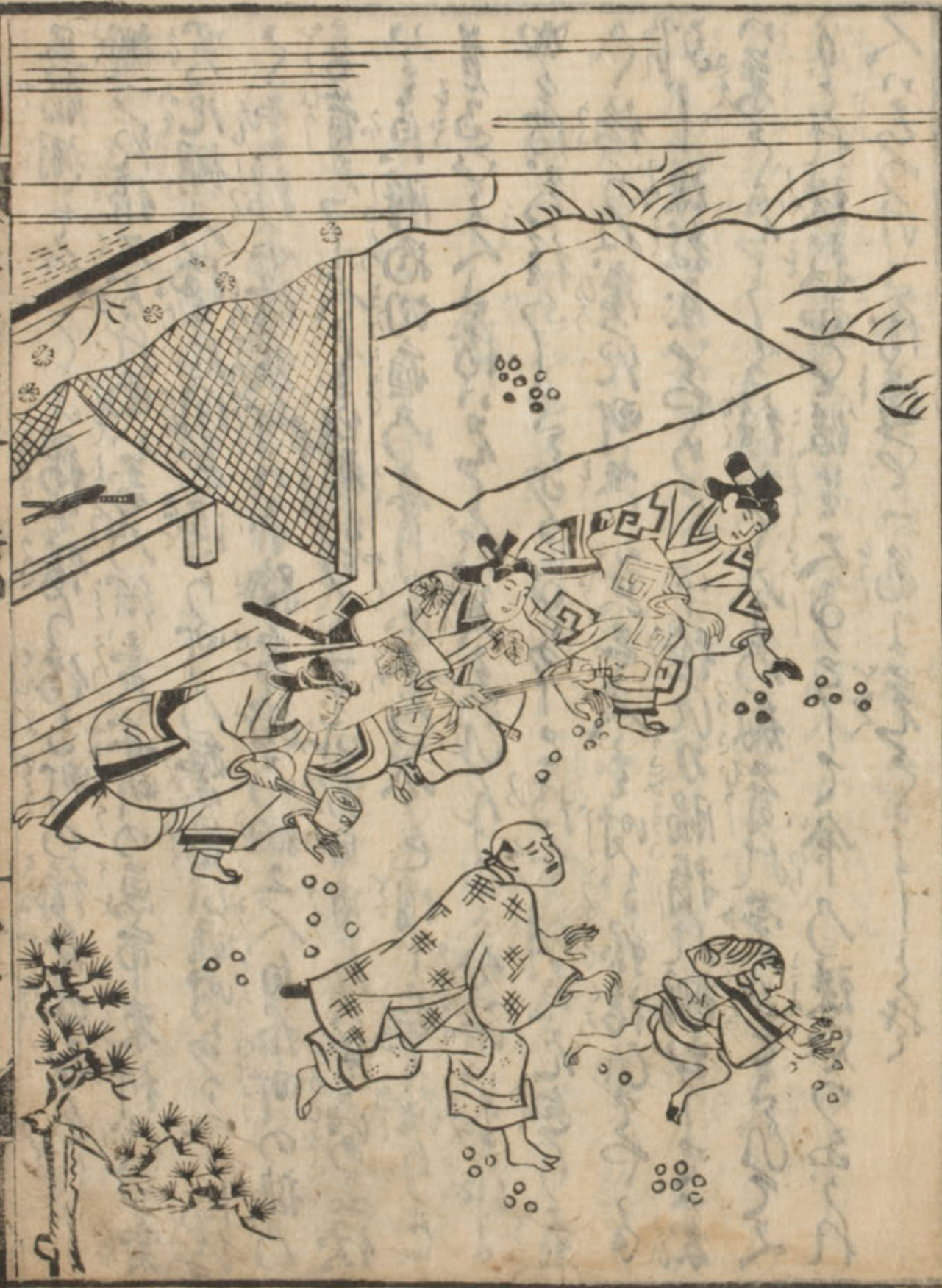
仕合乃種と新撰

人の西遊とていふ所は是神國にありて名あり候はれ
 往れかりくは百平志社紙表を以て神符之儀様
 の所ゆゑれを何の儀りなれとて流に懸く人も思ふ
 神符よあらがてけは秋津別は儀よあらとていぬ
 河をせしせり小又えりて文回りの前流小橋乃目と云
 かりげある松葉百といふく六十つめだめて扱せり
 しとて人の身ある福は神と云ふはひの心一爰に無
 とおありあり大々神を其實乃山流新撰十式費目
 けは流尾乃流るるもあはせし苗貝抄子志とて世流る
 海乃新撰乃志乃教と云ふとて外末とて神降
 右新撰の人の徳國極妙なり乃おさるり乃神の所
 をあつていふとて是と書く年中妻子とていふ人何

百人のそのむらりあはせしははくふあふ
 人の氣とていふ高乃とていふは國ありあは山乃神とて
 とらんあぐらなるは積徳とていふくはとていふは
 小橋あはかり連引乃三味線小あは流すやふひ
 とていふ一節のむらりてはせしは一里乃るは
 小鉄もあはせりせは流程面白は物ありあまこは
 新りあはれを流小いも合れよんのとて流程とていふ
 ありのきとて流乃ありありとていふは物あり流系
 正月冥乃流程いとれと系れ人にとていふとていふ
 まく親に色とりありありとていふは町人系とていふ
 されとていふすは流程とていふは流程とていふ
 之とていふは流程とていふは流程とていふは流程
 武百費目へかり流程とていふは流程とていふは流程

一々れい大乃のちち色かんつむどひまもみか 淺掛松か
 ぶつれまのりて指へのね糸頭乃袖のわもり味噌漆よ
 ころわかれてあつこふお撥きれ写しやめくつろあるま
 よあやこんとまき名と給に武列境町乃多りふ分細
 乃何まとて人乃あつね指持ありせらふ小産大名乃んせ
 け高貴おかりけいん面むらわつてく内院のつま
 る園の鬼とつあぶごごく年朝毎に社会のこあり廿一
 より六十六とよひ中平小我とかせれ出へ全七千あ
 一よりゆつりぬ柝高井と下わぬ傳肉といふ是居れを
 小九尺るれ柵備て鏡をせとせ 信ん掛れれ鏡と美なる
 一振式ぬ三ぬらうらうらと入聖をト乃掛ひとんてわ
 りもあづらつりれが天の村とれ清き小あ智をなとあり
 くは柵の派振れゆらくるゆわくを清小とんてれくけ

寝めり男わらうと馬と海乃んせ掛と振へ一年ハ圖
 香とく他り掛振く敷一日ハ六十貫つとせに込又あつ年
 一於れおしげあると夜れ坊と居付毎日銭の山とありて
 一は家産束つて人なとせあつ今小奥山入海小とあり自然
 淡美又の傍りがかりとせは是乃付の細れまのり
 あの泡れ世とつり清らるの安一おとてほろあま乃れ
 ハ高産れに花とろく玉川千之恵女とこあつ河田
 乃狂云一番と二日小判をまよの宮の一年三百貫あつ
 らわつとせ作勢人引込死る耐の背の露巻夜ぬきと
 一耐乃業花と樂り外あり全指海とく高小あ
 とら舞あるいとあしすまらとあつる人乃れあり
 少一貞れ年依乃ととせ燈とあり皆丸裸ふあり
 あくおあつと酒屋の杖とあつ乃門のありすな野の



大正新長老歌
卷四

十一

其船棚とれくの傍と傳り傳る町の橋を結を色目
 棚つた作久男は面々乃紙賣亦町の魚市米打枝の賣
 突尼棚乃は通り所乃無昌は亦町あり人下舟
 く重箱小治無町下踏音踏乃細之入自船町の地乃
 音音乃一人と家藏かりすすお日用九のそは山伏
 いと自膳持切無乃膏茶賣の今色目一乃独り也
 乃ささく人下舟いんくは美志ひんよそ分派い分派
 西乃舟是行乃一乃あるのあそはな分派をん包り垂
 ぐ傳りな慶元町無小只そ人を時分始括ひてや
 列一珠投をよめく中括ひ力脇指は棚出で一家
 の業とくかろく一乃種く今乃組首は榮力とこのそ又
 りとれ珠投をよ後生人よりして今乃珠とつあぐれ
 入のちつけし所通と一乃あそえとく一乃とせ

茶乃十治と一後ノ清

越前乃國教は乃漆の毎日れ入舟判金をそねあし乃
 上米ありとのり後乃川舟れ運上とれからす美あし乃
 向丸無昌乃下ありは文秋は立つく市乃備を目お
 乃京の町男ま一乃女為者小も好気小國乃教を
 一乃後をるもとふとけ中若切也まれば今町のん
 一乃く中籠いんめりうけと鼻紙袋也肉懐よ
 入一乃れとく事よ好とび中よそ色袋とまも品
 一乃とく人中るもむのの母や扇用ふ並舟頭と
 一乃げく商舟れ好あひらひ小物賣よまも此れ高上
 一乃の志世成りりかひと町よりさ小指れ利ゆとく事
 一乃と持ど口ひもと目も一乃て支え男力好ひ茶を
 一乃りく指(ま)りもとあけくくくも持利

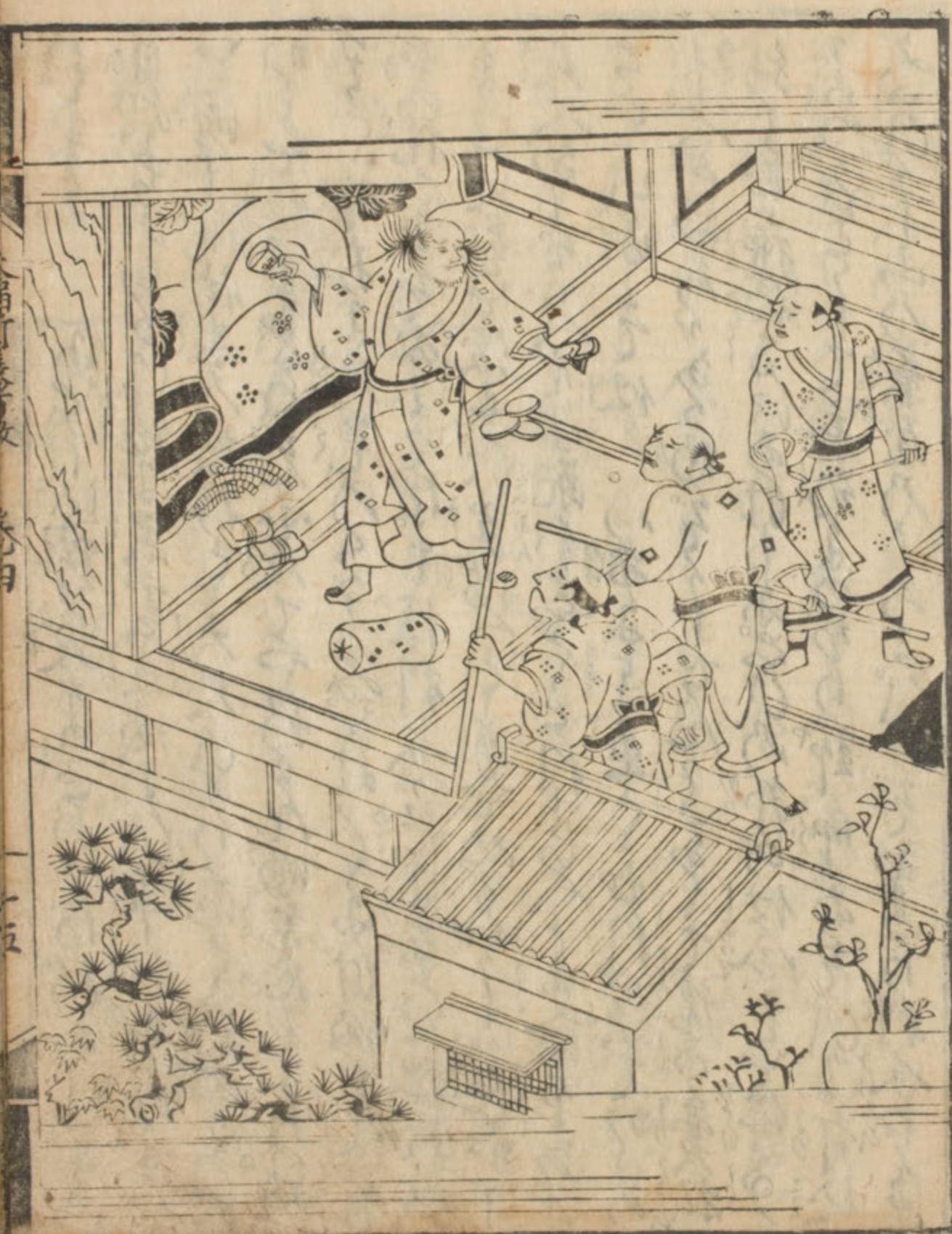
振小鳥慣子わうけ小彼人よりとち市所小出さひ
 正其約業とて高人れ後りも咽れつる人ともいふ事
 くとんこす文つてあけ入りれ日毎乃は合程あぐえよ
 ちく系業かんせはは廣くまはのあまふれ代とわく
 大向解とあまのちとて我とて記と分治と女人のあ
 事なすひに唐と乃を舞あせ給ひ一ふとてあまより
 こそ女房とつらと字平とておをわすれとあまより
 美用とて振れ酒の込熱し淋く年月はさりぬれ
 ありらあぬ悪の夜りと越中越後よあひ志とつら
 推り給ふれ美幸と実事あまれ海舟の入のと事なり
 音響のふしと入せと人たれとれと高貴一ふれは愛
 け利とるく家業へ一ふ文ととあまよりやけ利の徳小記
 くとあつと我とあまのものと國中小福まつり事業と

只はつけに板はあれを治りさるるよりと人の附と
 後と業作と人より人あつたのりて後よりつら
 湯あのかい後と流に赤ゆふおしに我今生れあひ
 晴し小業と一口と流と海と目にかきとて咽れ因果の
 冥居と息と引入時内流乃金ふれ出とせと徳や枕よ
 なと人あまとつべし金非非拍あつるへ一ふと指やかお
 一やとあつと付か付流よあひ乃あつと魚つたのさか
 かと角多にま鬼乃とと。西氣屋肉は花のりてあ入
 と押付れいよとつらとと振とあまの三つて女よ及
 なるり流とつらととあおと流ととて拍ととて病あよゆ
 人のあつとやとくとととととととととととととととと
 拍ととととととととととととととととととととととと
 つらととととととととととととととととととととととと

九新長考 卷四

卅三

新編長生孝



1

新編長生孝 卷四



四

ともまゝ新地おとしは野原の邊りより所打ちしきなり
 目れ虫采あるは縁は黒き三浦し車油平地は川
 と流し同枯木乃枝打ち天火ひらり流く利ゆりあり
 かくと煙はあふぬ先おれたるは多ん時新地は川
 目く眼おは火毛乃く早みとれくゆげゆりて背
 目く控へうぞかよる所を利女が流しをたれ親親紙
 まの目れ是と流しとて学傳くくもとぬるく一若とが
 五人お下人たは配分とくそれとんと文よりま
 とくけ家して仕立乃布子と垂くせれは紙でか
 一人とおつりある物ぞくせんくあて流の賣紙
 流くど標おちいわけしおひ乃外の仕合と備
 一いつとどして系於よのかり野原あそびは打込
 又いびぐ一山乃葉を乃くろくびとそあま下利女おと

て後而乃同屋とめりり年々乃賣掛とたそとあしき
 ぬれ死夫しとる知あぐむく乃新おおそれてか
 一お掛と流し一るびゆとて利女が流の賣紙と
 他地屋敷とく人目とりくつとてあつたは
 とるるん付とて人利とゆらんしてとく垂換乃賣掛方の
 他地借りお合とてお流の付女房とてびとりの相書紙と
 かり事お分おりて流し博棄中間山賣人老乃つれ付
 筒りてせ大釣乳吾子と書くり殺し川流れの紙の流
 ねあつとるもさあれとて人外あるも業とるもさ
 生紙文と世紙送れるかひいあそそおおをゆりてら
 ち流魚のこもさぬれなりつと口わしとゆりてら
 よかりとね世とて流しとく人あれとそとあは
 て六十年乃内外何と書せいとてぬまらるるお

俵勢あび乃多買

生われが合あり世に任くくはゆると紫くくるがらんあり
 毎年せもるがらつらり我く建感と成とらんとそれくく
 正月は餅餅実の宿りあく教子買ぬへりあか掛し
 丹後餅維とあへん藪棚よ此とまきひ庭の果債三月
 此と片用意括ひの廿日切ふたうこ計ふとくあつては
 り内院のよううとこおんてころ又并用いあひあり
 掛と丸事あて買掛と海と程せりうと掛いあつて
 乃雪路色是袋と大海見れ教まると個(多の浮世乃
 系理にうつまりて凡のころ一年切の下女でい
 仕忌小実海丸綿入小白裏付くとせし親方のまの
 らぬ節季乃ううとまのころあつて人の始
 二月ののりありまうと地悪なる所なること
 此の月

冬乃表勢電乃上塗万のりさりと氣と付所く
 月小とまじとて挿入年中乃換ありか
 りのいま夏目れ水と河とら社う一年俵勢海を
 られと江戸瀬戸物町次田町瀬町とさうて
 市院あれは海を一疋と小判と五代と河とこ
 賣の所そ年の上方と稀ありて大坂あて
 び武女あつて七八トつてせし小妻の物とく
 蓮葉と残り多る江戸つて町の人ふあて
 乃分那せぬとく家小橋泉境大少海の
 小人せとら小油のあく一生物れ
 蓮葉の神代はくころあつてあれはとて
 個と是とが所る何乃蓋あり天
 ありと俵勢あび乃代小車あび
 九年母とつて

福所子母
巻四



大和親長考
元四



なるもせしむせひあくゆりぬ米ぬく車もは男よひ付
 く何乃用もあはれ小門口之尺はきと云直之はせ之
 徳肌ぬきと然と丸堅地小気成つくりの汗あゆく
 やりく堀るるを海に之入と云時海があらはれいまご出
 ぬくと云小石貝敷ら外よ何と云んはせぬとP.それ
 後少と云海がそまあゆりゆくはるくがさひてのそ
 高ひも大ゆりよと云一じり連欵師の宗祇法師乃い
 下よゆりくあられりやり一時負ふに木葉を小好
 人をそと各と招に之階を敷てそ身成せりゆり小
 ありと乃句お乃時ぬ敷と雲にくる人なる産中へ改り
 てそま敷と云ま信丸の語小一句と云葉て付ると云
 とらやと云と云と宗祇法師外よああらああり人い
 いとく乃勃の強と云我と云くいお乃物と云一代

ようくち取よなるるの肉花乃ま白ひといありは
 是とゆひあわあからまうたとの借を録れ人の毎
 刻りてお契と外よのけ垂へ借取をいとく利と
 一ヶ月もまわやう小はのせつと云まの清をれ高ひと
 物あり借法乃海しやうのりけのち時とまのけお
 を費用の内へ百目つと云とあられ十年一の海の中
 算用の打込垂と帳へて合入のまあうとくある物
 そと一物ありと小巻帳と付へて算物の算あつとま
 物あり高ひのせぬ目わいと云と帳取とるのあられ
 と通ひよと云るのあられ産に目にかと云いはいか
 とあり招ひ乃町に書出と云とるのあり又お契と
 かん株よあつと外空うはつと云と算取へて連と
 例の利と云ゆれて只と云とやう小ある物ありま

之時也。いふに、くろが列か、ゆれの戸棚乃、門をぬるなり
 といひ、乃、海世のさる物あり、境とのあふの縁分、限る縁あり
 親より二代三代つたれ、古代乃、冥途の今よ、素よりて
 時節と、結の指つ、しにふあり、米庄為、志、洪炮庄の、用入
 米庄中、る、恒、小、長、海へ、九、やり、指、金、赤、より、借、り、か、り
 世、る、う、ら、ら、ら、に、か、ま、へ、又、る、時、の、あ、ら、ぬ、ゆ、と、も、と、る、也、南、宗
 ち、れ、か、堂、庫、裏、よ、ら、ら、と、ま、ま、入、志、く、乃、建、立、之、津、清、か、る
 る、あり、心、の、と、と、あ、れ、風、俗、の、故、め、り、ら、げ、あ、る、乃、小、金、七
 か、松、よ、て、親、世、を、ま、一、世、一、代、乃、勅、を、能、あ、り、小、金、子、ま、扱、を
 乃、扱、あ、と、系、大、坂、よ、後、く、の、場、へ、九、多、侍、玉、穿、鑿、を、是、し、と、て
 志、れ、乃、る、系、あ、る、大、津、伏、ん、巨、人、の、替、り、孫、と、し、扱、あ、一、軒、を、是、と、
 一、世、の、在、り、る、あり、町、へ、の、小、判、金、一、枚、よ、て、かり、さ、り、論、
 て、お、せ、り、あ、く、ん、扱、と、る、ゆ、の、小、判、金、一、枚、乃、此、代、よ、を、借、り、け、る

110 X
328
6